

うほむ物語

田嶋の村志

一名北き山志

古本十二の巻

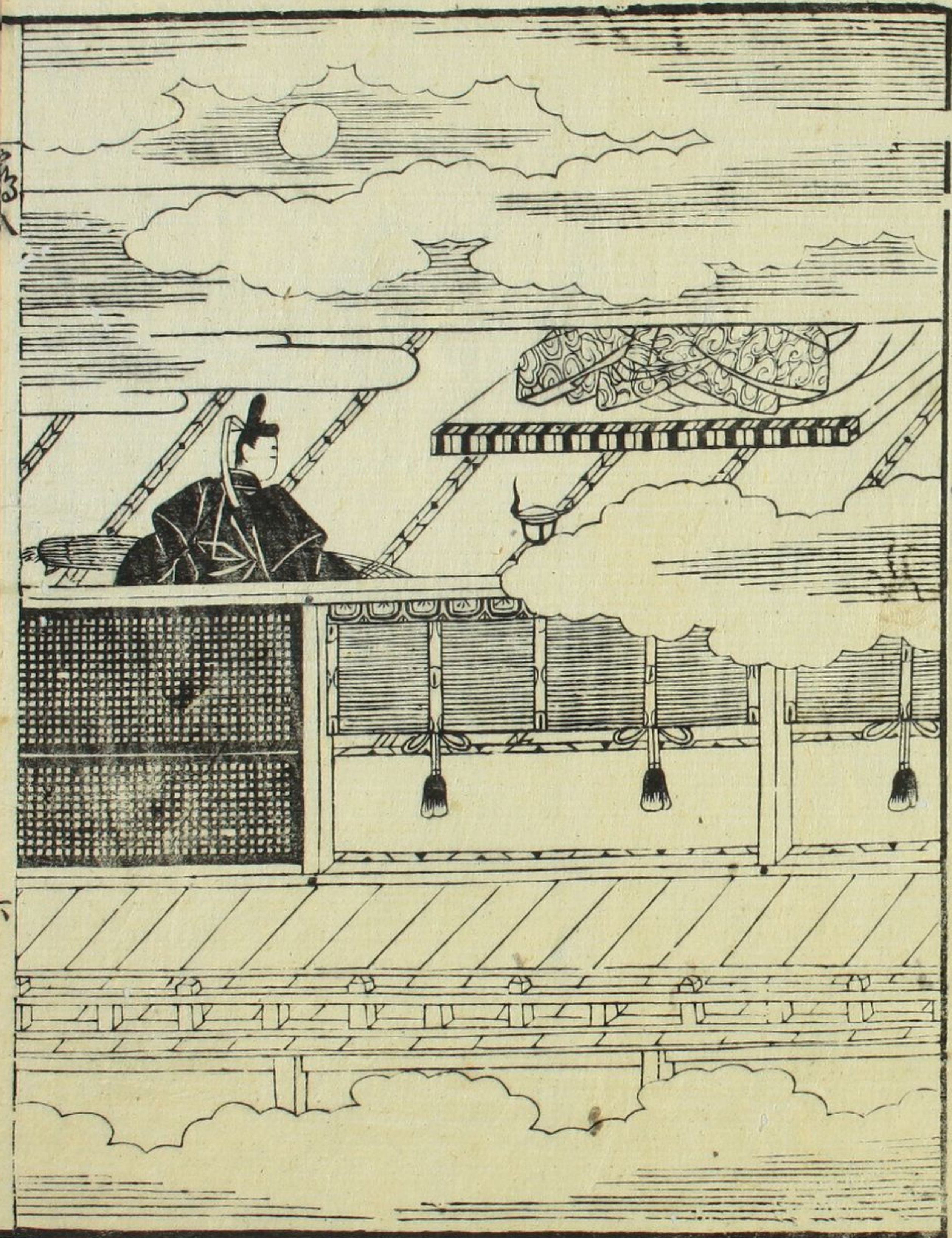
今板本八の巻





神皇正統記

六月よりには乃河門に於殿よりより將て大將の
 女所と云ふありきと云ふなりけるものなり
 されどつらうなれどもいふにふたふた
 ひき上りていふものなりけるなりけるなり
 出づればふたふたなりけるなりけるなり
 将て大將の女所と云ふなりけるなりけるなり
 けいふふふふふふふふふふふふふふふふ
 ありきと云ふなりけるなりけるなりけるなり
 ありきと云ふなりけるなりけるなりけるなり
 ありきと云ふなりけるなりけるなりけるなり
 ありきと云ふなりけるなりけるなりけるなり

[illegible]

[illegible]

中納言とて、
中納言とて、
中納言とて、
中納言とて、
中納言とて、
中納言とて、
中納言とて、
中納言とて、
中納言とて、
中納言とて、

夕とて月とかりの物成の人のねも
 こまりとせられゆく

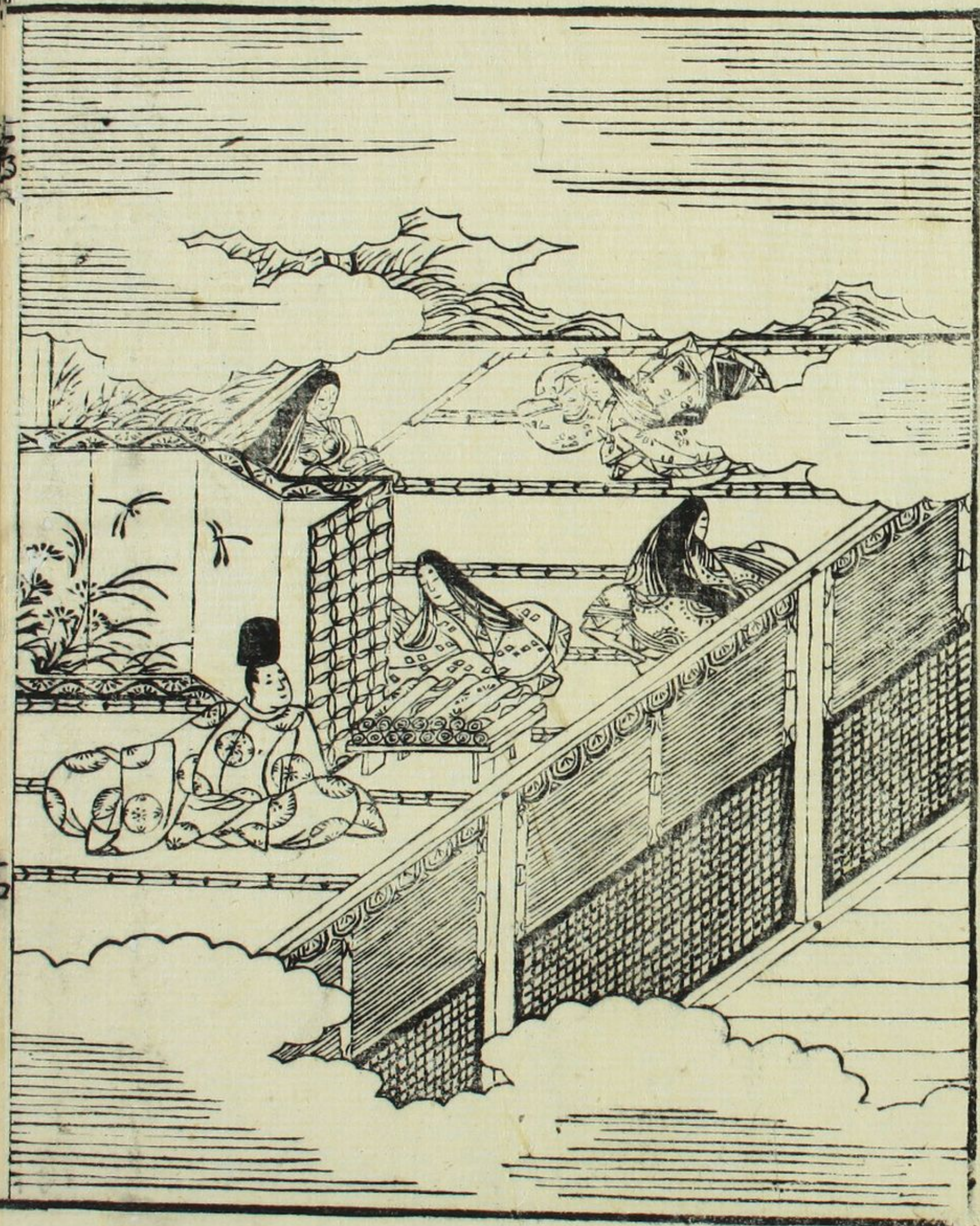
夢いさくすゝ松とるる時いふとさるる

[illegible]

ふねたりと羨ましくいふに雲と山とをば
なりぬとこそそれとす終中納まのれうこり
物あていふさうにぬねれとすうさうに

[illegible]

とらにまゐりていかにあつてのまゝうらたつては
いのかくのまゝにあらうとてあつたまゝにあらう
はとてあらうとてあらう



[illegible][illegible]

[illegible][illegible]

[illegible][illegible]

13

ひまふんをゆくゝわづらひてゝるゝ
たうあせうめや、源が将をこゝをあらうてり
うはるゝ

[illegible][illegible]

[illegible]

これちねもわきまふしなれどとにうりるを
とこれうりるもなれど

うひまれすもよりそふふに歌ふ
里とちひさるふふあへま

うゝとてまひさうめんといふそい月がら
しとくあひ笑しめどこあらねだのせうみねて
あやしくまごころくれりすと泣くところへえ
—うきつと寝るとも阿る事なくもめし寝るあい
そこの君よりおわり君といふ——してわづかいま
人ゆらうむじいを移りわてまことの心を残さぬ
人にれろろれろ——をすさあるきれびと——さい

うゝ秋風うれとの給や〜こもりや海うほとあさ
れと思ふとさうさう〜ものゝたはみ〜とて

[illegible]

てもさうなり。花もくへて人ぞ散りわが路はつね。
 これあこめをくさうと。いつたり花の陰かげよりあま
 て、いづきさびしくなりや。あまれなう極く世
 と別れてお終ふ。夕ぐれの色よくしらうね。
 ひさしくまつり終るぬすむと。みくらみぶの中よあ
 終る人将えくまうぬくまとの終へゆくう。
 川の目よりよきうあるおぼりくゆきううをそ
 こふあんれみ終へじくと。ゆきゆきききありみく
 こゝろもいつか代わてくれきくじきくううう
 はいとあんぬきききききそれと思ふうあれ
 しきききききききききききききききききき

りしつゝいゝもふくちんのかういふにむろ
きふよきぬくやじくふいふかきくふぬ
くゝれぬよものあうていれうふいふなり
るくさうかきふくす。あうていれうふ
なりていづかのふぬくふかきくふいそ
れぬかきふくさうりかきくふかきく
つゝいゝもふくちんのかういふにむろ
くゝれぬよものあうていれうふいふなり

れのかきふくさうりかきくふかきく
あうていれうふいふなり
くゝれぬよものあうていれうふいふなり

よせやあうていれうふいふなり

これかきふくさうりかきくふかきく
とゝいふもふくちんのかういふにむろ

ね風のふくちんのかういふにむろ
かきふくさうりかきくふかきく
かきふくさうりかきくふかきく
けいあうていれうふいふなり

あうていれうふいふなり
のふくちんのかういふにむろ
かきふくさうりかきくふかきく
くゝれぬよものあうていれうふいふなり

うて。ほゝゑてうう。ほゝゑて。やうやう。ほゝゑて。
うて。ほゝゑて。うう。ほゝゑて。やうやう。ほゝゑて。

